

日本大学工科校友会

桜工



1967 47



若きエンジニア

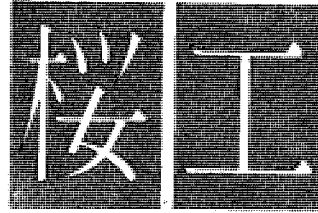


堀内敬三 作詞作曲

- 1 昭喚の日出づる国こそわが祖国
其の名をば担いて聳ゆわが母校
伸びゆく日本の力は茲に
地を拓き行く者若きエンジニア
- 2 青春に夢あり宇宙に真理あり
現実と理想を結ぶもの我等
科学の力と不屈の意志を
武器として進まん若きエンジニア

日本大学の目的 および使命

1. 日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがひ、自主創造の気風をやしなひ、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。
2. 日本大学は、広く世界に知識をもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。



日本大学
工科校友会誌
1967
VoL. 13
No. 47

■新入会員を迎えて／木田保太郎	5
■座談会 体験と期待	6
黒須賞幸, 栗田国義, 堀田和一, 染谷文夫, 須山正敏, 新沢順悦 (司会) 下青木秀吉	
広い意味での勉強を／卒業は社会へのスタート／楽しかった強歩大会／消極的な理工科学生／役立った卒論の勉強／「優」の数より実力／人間的な魅力が大切／フレッシュ・フェアー・ファイト	
■橋梁の権威 成瀬勝武先生	12
■卒業生と在学生へ／渡辺寛治	13
■私の療養記——精神科病院での体験——	14
安藤三郎	
■揺籃期の人びと(4)	23
工業化学科の生い立ち／語る人 黒柳安二先生	
■部会だより	
土木・建築(30) 電気・化学(31) 薬学・工経(32)	
■雑記帳(33) 提供 名取康	33
■古田先生を囲んで	33
■支部だより(34) 神奈川県支部総会, 福井県支部長の更迭	
■学友短信(34) 第16回理工学部二部スキー学校ほか	
■会合だより(35) 建設局支部北多摩分会総会	
■グラビア 入試風景	
■表紙 五号館のレリーフ	
■会誌委員／委員長名取康(化学)／土木・下青木秀吉(副委員長), 篠本勝美／建築・安藤三郎, 井出好昭／機械・青木頭一郎, 両角豊志／電気・篠原博(副委員長), 高橋信夫／化学・大塚喜作, 黒沢喜久雄／工経・三浦智徳／薬学・山内盛, 戸塚淳逸	



狭き門(本館入口)

入試風景



お茶の水理工学部本館前より6台のバスに分乗出発した。長野地方は近年にない大雪で、目的地に近づくにつれ積雪も深くなり、仮眠から醒めた参加者の歓声に反比例して、バスの進行は遅くなった。あえぎあえぎ目的地「狩スキー場」への到着は予定より遅れること1時間、午前7時であった。予め配布してあったスキー学校要綱により、参加者は整然と夫々の宿舎に分宿、遅い朝食のあと午後の開校式、引続いての講習に備え、バスの座席で固まった脊骨をのぼして午前中は休養した。

正午よりいよいよ開校式が、あくまでも青い快晴の空の下、純白の雪に包まれて開始された。開校式後、上級、中級、初級の3クラスに分れ講習に入った。久しぶりに都会を離れ、自然にしたしみ、快い汗を流して第1日を終了。

第4日、1月2日は元旦以来の降雪はあったが、いよいよ待望の全日本スキー連盟公認のバッヂテストである。

全参加者の努力の結果、惜しくも1級はのがしたが、2級以下に大多数のものが合格し、予期以上の成果を納めたのは立派であった。

最終日は降り続いた雪が吹き荒れたため、ゲレンデは滑走不能となり競技会が中止となったのは、かえすかえす残念なことであった。



建設局支部北多摩分会総会



昭九会総会(前号参照)

午前3時頃よりのブルドーザによる除雪作業にもかかわらず、降雪量が多くすべての道路は、交通が杜絶し帰京のバスも戸狩駅でストップしてしまった。そのため予定を繰り上げ、11時頃スキー場を出発、おりからの降りしきる雪について、全員約30分の雪中行軍の末、駅前よりバスに分乗、正午出発帰京の途につき、午後11時無事理工学部本館前に到着解散となった。

全日程を通じ、2,3の捻挫以外に事故もなく終了することが出来たのは、関係者一同の努力の賜で、この欄を借りてお礼を申し上げます。

このスキー学校が年中行事となり16年の永きにわたって続けられて来た事は偏へに学生課、体育課、校友会、その他各方面の方々のご援助の賜と信じます。こんご共永久にスキー学校が続けられるよう、各方面のご援助をお願い致します。

日本大学理工学部2部
スキー学校
実行委員長
大竹国良記
(グラビヤ写真参照)

会合だより

建設局支部北多摩分会総会

建設局支部の会員は現在約900名で、東京都の建設事業の中核として大いに活躍している。その中でも北多摩開発の建設事業の中堅技術者としての工科校友の活躍振りはまことに力強い限りである。北多摩分会は北多摩郡(人口約130万人)の東京都並びに各市町に勤務する建設関係の工科校友を一丸としたもので、会員約80名である。

41年度の総会は去る2月18日調布市の「辰巳」に於て殆どの会員参加のもとに盛大に開催された。当日は支部の下青木事務局長が出席し、本部並びに支部及び学校の現況について祝辞をかねて報告、分会長に中村敏夫、副分会長に木田敏、北原貞利、山沢昌之助を始め、各役員を選任した。ついで懇談会に移り、歓を尽し「若きエンジニア」を合唱して盛公裡に会を閉じた。(下青木記)

■昭和42年3月20日印刷/25日発行
■編集兼発行人/高木政司
■発行/日本大学工科校友会(東京都千代田区神田駿河台1の8/電話東京293-3251内線206/振替・東京162710)
■印刷/本文・鉄鋼新聞社印刷部、グラビア・和喜グラビア